

令和6年度福岡市子どもプラザ事業運営団体選考に係る協議会 議事要旨

- 【開催日時】 令和6年11月14日（木） 14：40～17：00
【場所】 アクロス福岡 605 会議室
【議題】 1 応募団体プレゼンテーション・質疑応答
2 応募内容の審査・評価、意見交換
【出席者】 中村委員長、川上委員、植山委員、木庭委員

南区おおはし子どもプラザの選考

（応募団体B）

委員：運営理念で記載のある、グローバルな視点とはどういうもので、外国人家族を取り入れる働きとは具体的に何をするのか。

応募団体：保育事業をしている中で、外国人家族が周囲からの見られ方に敏感になっていると感じることがある。子どもプラザについての発信や、日本人も参加できる外国人家庭の集いの開催などを考えている。

委員：パンフレットを外国語で作る計画はあるのか。

応募団体：保育園のパンフレットを外国語で作成する計画がある。離乳食の食べさせ方も英語で作成している。子どもプラザについても検討したい。

委員：子どもプラザで吐き戻しや発熱など、体調が悪そうだとみられる場合はどう対応するのか。

応募団体：そばに行って熱を測っても良いか、とお声掛けする。小児科の先生と密に連携をとっているので、感染症の流行状況を把握して対応している。

委員：系列保育園の対象児童年齢は。子どもプラザと類似の施設の運営経験はあるか。

応募団体：系列保育園は、0～2歳がメイン。前職で子どもプラザスタッフとして関わったことがある職員がいる。イベント時の託児なども経験がある。

委員：子どもプラザに応募しようと思ったきっかけや思いを教えてください。

応募団体：こども誰でも通園制度を実施した際に0歳児の募集が殺到した。保健師さんや地域の方から紹介された方もあった。社会的つながりが希薄な中、保護者が一生懸命子育てされている姿を拝見して、誰もが無料で予約なしで通える居場所をつくり、地域に貢献したいと考えた。

委員：おおはし子どもプラザの広さを生かした企画を考えているか。

応募団体：親子の触れ合いのレクリエーション、体を動かすレクリエーションを行いたいと考えている。

委員：非常勤スタッフにも賞与が出るのか。

応募団体：出している。

委員：計画上、避難訓練が毎月あるが、負担ではないか。

応募団体：保育園では毎月行うことを当たり前としている。毎月行うことで職員の意識を高めたい。スタッフと親子一緒に実施する。

（応募団体C）

委員：コンシェルジュの職員配置について、2人以上配置が必須だが、休憩時間を考慮すると配置人数に満たないのではないか。

応募団体：2人になるようにシフトを組む予定。

委員：理念において「学びにも、リフレッシュにもなる環境」とあるが、具体的にどんなことをするのか。

応募団体：親にとって学びとなる講座などを提供したい。他の母親と交流したり、コンシェルジュに相談したりすることで、リフレッシュできればと考えている。子どもプラザと地域の方々との連携部分やイベントを通して様々な世代と関わりを持つことができると考えている。家族みんなで参加できる企画などもある。

委員：屋外のイベントの提案があるが、それを行うとしたら、スタッフは増員するのか。

応募団体：イベントチームで人員をまかないたいと思っている。

委員：イベントの中で「誰もが活躍できる機会を提供する」とのことだが、日常的な場では、どのような場をつくっていくことを想定しているか。

応募団体：子育てを終え落ち着いた方や子育て層の年齢に近い方を雇用することで対応していきたい。

委員：10年間の子育てコミュニティ運営の実績とは具体的に何か。

応募団体：ポタニカルマムズガーデン事業を一例として挙げている。植物園の中に場所があり、エクササイズや水遊びなど年間約30回のイベントを実施している。ここに関わっている方が、おおはし子どもプラザのイベントにも関わっていくことを考えている。

委員：おおはしならではの特徴を踏まえた企画は考えているか。

応募団体：日常にプラスができる場所、日常的に安心して遊べる場、孤独を感じずにいただける場にするを考えている。駐車場もあり利便性も良いため、コミュニティが広がりやすいと考えている。

委員：その良さが促進される仕掛けは何か具体的に考えているか。

応募団体：地域的に通勤族が多いのではと考えている。これから発展していく地域であり、

イベント内容の充実などを考えている。また、SNSが可能であれば積極的に活用し、南区の子育て世帯に届く周知をしていく。

(応募団体D)

委員：今まで運営してきて、子どもプラザでの課題や問題点はあるか。

応募団体：まずは運営が順調にいくか気を付けている。地域のニーズを引き出していくことや、コンシェルジュが地域の声をどう聴くかが課題。

委員：新たに取り組みするものはあるか。

応募団体：コンシェルジュ機能の充実。地域の子育てサロンや子育て支援事業などにコンシェルジュが参加し、直接保護者からニーズを把握して支援につなげたい。

委員：外向けのアウトリーチ以外ではないのか。

応募団体：情報の偏りがあるので講座について充実していけたらと考えている。たとえば離乳食の栄養など。

委員：一時預かりで体調不良があった場合はどのように対応しているのか。前日の体調確認は行っているか。

応募団体：早めのお迎えをお願いしている。前日の体調までは聞いていないが、変化はあるかなどは全員に聞いている。

委員：事業計画を見ると、講座や相談イベントなど週に1回は行っていることになるが、間違いないか。

応募団体：そのとおり。

委員：広い面積を活かしたおおはしならでの取り組みについて、何かアイデアはあるか。

応募団体：面積も広いが、その分利用者の人数も多い。広さを活用するのは今後の課題。

委員：おもちゃが少ないという声があるが、どう考えているのか。

応募団体：現場からの申請があれば、経理としてはすべて承認している。

委員：異年齢児交流事業・小学生行事に参加とはどういうことか。

応募団体：塩原保育園に小学生や中学生が来ることを意味している。

委員：外国籍の親子の受け入れ実績はあるのか。

応募団体：子どもプラザに発達相談で通訳と一緒に来場したケースあり。まだまだ、潜在ニーズがありそうだと感じている。

総評

応募団体Bに関して

- ・保育事業に強みがあり、一時預かり事業の面で期待がもてる。
- ・比較的、子ども中心の視点による提案が多いように感じられた。子どもプラザは「親と子」が一緒に利用する場であり、親への支援・寄り添いの視点を大切にしたい提案内容の充実について期待したい。
- ・子どもプラザについて、人員配置を含め現場を想定した具体的方策が伝わるような提案が望まれる。

応募団体Cに関して

- ・イベント開催の実績が豊富であり、企画内容も興味深い。
- ・ただし、日常的な取り組みや関わり方を足場にして企画を行う必要があり、人員配置や日常的な子どもプラザの運営について、実現可能性に向けた具体的方策が検討されていることが望ましい。

応募団体Dに関して

- ・大学との連携もあり、人員配置の点など大学のサポートを期待できるほか、保育士を多く配置している点は評価できる。企画などについても、大学の強みを生かした取り組みについてさらに期待したい。
- ・発達相談のニーズは高いと思われるため、発達相談の継続及び充実を期待したい。
- ・おもちゃが少ないという声への対応について、様々な手法の検討や工夫があることが望ましい。
- ・おおはしならでは特徴を踏まえた取り組みを行うことや、利便性の良きのPRなど広報の強化が望まれる。